

陳 情 文 書 表

| | |
|-------------------|---|
| 受 理 番 号 | 陳 情 第 1 3 7 号 |
| 件 名 | B R T (バス高速輸送システム) の中止を求めることについて |
| 要 旨 | <p>さきの市長選ではB R T計画が争点となり、篠田市長の得票率は36%、B R T白紙撤回を掲げた2候補の得票率は合わせて64%でした。</p> <p>市長には、この結果を真摯に受けとめて立ちどまり、市民の声に耳を傾けていただけるものと期待をしておりました。</p> <p>しかし、市長は当選後市民に選ばれたので決められていた事を進めますと述べ、B R Tを反対しているのは誤解をしているからと反復型意識調査を始めました。</p> <p>一昨年12月17日に行われた総務常任委員会で、連節バス購入に賛成する議員のほとんどが条件つきであったり、20日の本会議では、共産党の議員が検証の結果、市が説明してきた連節バス導入の必要性の根拠を覆し、既存のバスで十分との重要な反対討論があったにもかかわらず、これに対して導入に賛成する議員の意見を求めることもなく、すぐに採決に至ったことは議会のあり方として納得できるものではありません。</p> <p>本会議でバス導入理由を否定されて以降、市は連節バスはシンボルとして必要としか言わなくなりました。このために多額の公金を投入し、市民が大切にしている木々を伐採してまで行う計画とは思えません。</p> <p>超高齢化社会を迎えようとしている今、B R T計画は乗りかえによる不便さや連節バス乗降時に時間がかかることが予想されるなど、将来バス離れをより加速させるのではないかと予測されます。むしろ、低床で小型の住民バス等の充実こそ、市民に求められているのではないのでしょうか。</p> <p>正当な民主主義のもと(マスコミによるアンケートでは賛成1割、反対6割) B R T計画の中止を求めます。</p> |
| 付 託 年月日 委員会 | 平成27年3月3日 環境建設常任委員会 |
| 受 理 | 平成27年2月18日 第662号 |